

平成 29 年度第 6 回岡山県地方独立行政法人評価委員会の議事録

- 1 日 時 平成 29 年 7 月 26 日（水）10:00～12:00
 2 場 所 公立学校共済組合岡山宿泊所ピュアリティまきび 3 階橘
 3 出席委員 萩原委員長、田中委員、小田委員、江原専門委員、田淵専門委員
 4 議 事

(1) 平成 28 年度に係る業務の実績に関する評価結果について

- ア 評価結果の確定
 イ 財務諸表等の承認についての意見

(2) 第 2 期中期目標に係る業務の実績に関する評価結果について

- ア 評価結果の確定
 イ 積立金の次期中期目標期間の業務への充当に係る承認についての意見

岡山県精神科医療センターから平成 28 年度計画について説明し、続いて委員からの質疑が行われた。以下はその概要である。

委員発言要旨	地方独立行政法人及び事務局発言要旨
<p>極めて順調であるということですね。例えば財務諸表で、業績が若干悪くなってるんですけども、コスト面見ても、可動的なものばかりで、コントロール不能なコストが上がってます。結果的にはどうしようもないことで、一見、財務状況が悪くなったようには見えるんですけど、仕方ないということです。</p> <p>続けて、頑張ってください。</p> <p>海外の医療機関等に研修に出されてるというのは、どのくらいの人がどのくらい行ってるのか、どういう効果があったかというのを教えてください。</p> <p>県内だけではなく、外国まで目を向けられて、すごいなと思います。今後、ギャンブル依存は日本でも問題になってくると思うんで、先立ってやっておられるんじゃないかなと思います。</p>	<p>○岡山県精神科医療センター</p> <p>1つは、依存症拠点病院を立ち上げていくということに關して、医師が1年間、英国の依存症のセンター、国立ギャンブルクリニックでの外来と、それから、モズレー病院と言うのがあるんですけども、そのそばにある大学院のほうに1年間在籍をしてました。そういう意味で言うと、ギャンブルについては日本、まだまだ途上なんですけど、さらに言うと、依存症の治療ということは途についたばかりで、社会全般での支援の体制がまだまだなんですけれど、それを英国に行って、学んで帰ってきて、その実績を、当院での医療の展開と、それから、できれば県内、国内の実践につなげていきたいということです。彼が、厚生労働科学研究の委員を努めて、ネットワークを広げてくれています。それを中心に、依存症関連で幾つかの治療手法に関して、作業療法士がアメリカに行ったりなどもしております。</p> <p>もう一つは、精神科の治療、もちろん他科に追いつきたいと思ってましてですね。根本的な治療を見つけないと思うんですが、一方で、なかなか難しい部分がありまして、薬物療法以外の治療を、枠組みをつくることで、認知行動療法ということが最近盛んに言われていますが、東京の基幹施設とつながり、あわせて、その海外の、東京が学んだ場所ですね、研究所とか、そういうところにセミナーに参加して、世界レベルのところでも何かついていきたいということで、そこにも人を派遣しています。主には、その2カ所だと思います。</p> <p>それから、中国との関係があります。洛陽市と岡山市との関係がありまして、その医療機関との提携があって、お互い情報を交流しています。</p> <p>この3つが柱になっているという、現状はそういうところなんです。</p>

16ページの25番の、院外講師を招いて、医療人、社会人としての意識を高める研修を開催したところなんですが、医療・福祉間というのは、その医療・福祉間の中での連携があっても、企業であったり、さまざまな分野の人たちとの連携であったり、多分野の業界についての理解や意識啓発が大変重要だと思っています。精神科医療センターさんがどのような講師をお招きになって、どんな視点でなさってらっしゃるのか、関心がありますので、教えてください。

その成果は、いかがでしょうか。

平成28年度の評価について、全体評価で「中期計画の進捗は優れて順調と評価する」で、第2期の評価のほうでは「十二分に」ということになってますけど、この違いは何かあるんですか。余り、「十二分」までと言うのは書かないと思うんですが、あえて書かれたようなら、意味があるのかなと思って。違いがあるのかなと思って、伺いたいんですけど。

3と4でオール5ということですが、4が一番いいんでしょう。

そうですね、4が一番いい。

でしょう。3があって、「十二分」って書いていいのかなと思います。今後、まだ、努力することはあると思うんで、「優れて順調と評価する」のほうが、いいと思います。

○岡山県精神科医療センター

まだ途中ですので、何とも言えないんですけど、職員にとってはモチベーションになったりですね、何かを突破するときに手がかりや力になると思います。

○岡山県精神科医療センター

毎年、他の業種の方を講師として招いて、講義を、職員研修をやらせていただいておりますけども、例えばCAの方を呼んで、接客のマナーを学んだりとか、あと平成28年度はお片づけの専門の方を。どうしても、個人の家庭もそうですけども、職場の環境整備を、整備というか整理整頓が、どうしても病棟ごとの文化というのがあって、院内が統一できないというのが、どうしても課題としてあります。緊急時に同じ場所に同じものがないと、緊急時の対応が、そこで数秒遅れてしまうというふうなことが実際にあったものですから、そういったお片づけの専門家を呼んで、研修をしたりということを昨年はいたしました。

○岡山県精神科医療センター

引き続き、今年、その方を入れて、今やってる最中なんですけども。まず、県立の時代から節約の機運がうちは高く、いまだに木製のロッカーといいますか、棚があったりしてるものですから、まず診療材料ですとか、そういったものは新しいロッカーを買って、同じような、同じ規格で同じところに物を置こうということで、今ちょうど整備途中でございます。

○事務局

評価がオール5だったという意味で、ついておるといっただけでございます。この点につきましても、委員さんのほうで表現が適当という表現を、またご意見いただければと思います。

○岡山県精神科医療センター

第1期と同じ文言であるはずなんです。

○事務局

ちなみに、1期のときと同じ表現になっておるようです。

文言を変えてもいいと思います。十分にご努力したことは評価されてるわけですから。

あえて、中期目標を「優れて達成した」とか、「優れて」、言葉を強調するか。企業でも、「十二分に」というのは、なかなか使わないかもしれませんね。さっきおっしゃったように、3も一応あるわけですから。100点満点ではないですから。

ここでもうちょっと努力していくのを残しておいたほうが、いいような気がしたんで。

「中期目標を十分達成したものと評価する」、「所期の目標を達成したものとする」。

まさに十二分というのは、わかるんですけども、表現としてはあんまり。

これは、「中期目標を達成したものと評定する」でも、十分な評価ですよ。十二分であるうが、十分だろうが。

シンプルに、「中期目標を達成したものと評定する」でいかがですか。

気持ち的には、十二分に達成してらっしゃると思うんですけど、言葉的には、いいのかなと思います。

では、委員の間では、「中期目標を達成したものと評定する」という文言でよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

事務局のほうはいかがですか。

そうすると、総務委員会とか県議会に、また、これ、提出されるんですよ。よろしいですか。

委員長に一任いただいて、修正しますけど。それでは、事務局のほうもご了解いただきまして、「中期目標を達成したものと評定する」ということにいたします。

資料(2)－4の裏側が細かい内容が書かれておまして、表紙のほうで、知事に対しまして、申請をして、第3期中期目標期間内に11億5,000万円は、原則これらの目的で使いたい、という内容でございます。

中期計画期間の5年の中でお使いになるんですね。

県民の皆さんのお金でございますから、大事に、有効にお使いいただければと思いますが。ご意見、ご質問等どうでしょうか。

11億を主に修繕に使われるということなんですけれども、どこをどう修繕するかという、その積み上げはされてるんですか。

○事務局

「十二分」という表現が適切かどうかというのは、ご議論いただければと思います。

○事務局

結構です。

○事務局

はい。

いろいろお使いになるということなんですけれども、メインとしては、やはり修繕ということになりますね。そうした場合に、積み上げ資料、どこが傷みそうなので、どこを修繕したいという積み上げは、やはり必要なんじゃないかと思います。例えば、一般の上場企業などが、予算設定するのに、修繕費用、予算として、どこを修繕するんだという積み上げ、大体持っているんですね。そういう形で、どこをどう修繕するから、これだけ必要だというようなバックデータというのは、持たれたほうがいいと思います。

これは、減価償却になりますと、使うのがずっと、費用計上でございますから、キャッシュベースと費用ベースと違いますので、キャッシュベースで11億5,000万円を積み立てておきたいということなんですかね。現金を使うと。その場合、これ、事業費用となると、ある建物をもとの状態に戻すということになると、資産となつて、減価償却が発生しますので、そのときは丸々、直す建築屋さんがキャッシュとりますけど、費用としてはずっと、建物は何十年とかなりますし。その辺の費用見込みは、どうですか。

それから、いろんな機器も償却がございますが、そういうなのは費用なんですか、減価償却費用として。

そういう意味で、費用発生主義の11億円なんですかね。

積立金。

減価償却の費用が入ってない。費用としたら、減価償却の費用を上げればいいのかは不明ですかね。

○岡山県精神科医療センター

7億が5カ年の整備費で、他備品の購入で、あと5億2,000万円ほどが、国の建築物のライフサイクルコスト表というものに基づきまして、もう10年経過しますので、大体5億2,000万円ほど必要になるということで、それを基準に計上したのが5億2,000万円です。残りは、病棟の再編や、新しい施設の準備費用、医療の機器の購入など、これが大体7億円としております。

○岡山県精神科医療センター

今計上しているのは、ライフサイクルコストの計算表から上げているわけですので、これから点検したりして、経費を積み上げする予定ではありません。

○岡山県精神科医療センター

5億円です。今、計画していますのは。これについては、また資産評価します。

○岡山県精神科医療センター

現金伴わないんですけど、損益のほうでは、当然計上していくことになると思います。

○岡山県精神科医療センター

11億円というのは、積立金です。

○岡山県精神科医療センター

取り崩すということに、なってますので。減価償却の費用は入っておりません。

○岡山県精神科医療センター

この11億円というのは、7億円と、これは整備費ですね。5年間の整備費と、それから5億2,000万円は修繕、計画修繕

民間企業の帳簿ベースで言うと、20万円以下が経費で落として、20万円以上は資産計上になりますので、資産計上は減価償却、耐用年数に基づいて発生しますから。そういう費用ベースで計上しているというんで、中期計画はどういうことを、経費で落とすものと償却費用のものと、それぞれ5年で計画してないと、項目と時系列を置いてなさると思うんですけど、それがないと、後任の方とか現場の部下の方が、当初考えたことと、途中でいいかげんになってしまうので。これ、やれたね、これ、やれなかったね、これ、必要だと思ったけど、実際、3年目のときにやろうと思ったけど必要なかったねとか。逆に、新しいものが入ってきたね、と、じゃあ、やらなかったことを、ここに充当しようとかというふうなことで、中期計画に計画表を作っていないと、いいかげんな運営になってしまうので、費用は。その計画書をしっかり作っていただきたいと思います、改めて。

今のでよろしいですかね。

はい。

改めまして整理いただきたいと思います。

全体の運営の収入が30億円ちょっとでしたね。積立金が11億円ほどで、これぐらいのお金を持って、精神医療を前向きにやっていただいたほうがいいのではないかなと思います。現場では、機器の変化が結構あると思いますので。固定資産の。だから、計画をつくっておといて、ここでこういうふうに見直したと、これが不要だと思った、急遽方向転換を中期計画の中でしますということを、文書方針の一部変更とかですね、そういうことをやっていただいて、堂々と変更等やって、お使いいただければいいんじゃないかと思います。幾らか、そういう金銭的な余裕も持ってないと、いいお仕事もできませんね。

この11億円、例えば5億円に下さいとかというのを言ってもしょうがないと私は思ったんですけど。

委員の皆さん、いかがでしょうか。

やはり、11億円といった場合、結構多い額で。例えば、企業だったら、目的別の積立金、例えば修繕積立金とか、何かそういうような名目でどんどん積み立てて、本当の繰越利益というのはこれだけですよというやり方をするんですけども、独法会計というのは、積立金を目的別には持っていないでしたかね。

と、それから維持修繕が、計算では2億円ちょっとぐらい、維持修繕、それとあと残りが計画修繕ということで、2億9,000万円については、これは当然、資産のほうへ計上しないとイケないと思います。そこから、減価償却が生まれてくる、これは別計算になります。

○岡山県精神科医療センター

本来は、新しく県民のための医療を展開できる場所を設置するために、以前の市の消防署の跡地を取得したわけですね。現在の経営状況を考えると、すぐに建築物をつくるわけにはいかないというのが、僕の判断です。この11億円余をいかに使うかということはいくらも考えさせていただきたいなど、こういうふうには思っているところです。

○岡山県精神科医療センター

修繕引当金ですよ。その項目については、公認会計士、外部監査法人のほうといろいろ協議したんですけど、基本的には建物を何十年もたすかというのをはっきりしない限りは

<p>引当金には持てなくても、目的別の積立金というんですかね、資本の部、いわゆる資本の部というか、純資産の部の中で、引当金じゃなくて積立金という形で、目的別に剰余金は持てないのかなという気がするんですけど。それも難しいんですかね、独法会計では。</p> <p>企業だったら、退職給与のための積み立てとか、貸し倒れのための積み立てとか。</p> <p>ないんですか。だから、全部を繰越金、繰越積立金、剰余金に持っていくしかないんで、11億円になってしまう。</p> <p>わかりました。</p> <p>第3期が始まるわけですけども、すごい大事なんで、中島理事長の、それから院長先生の、この5年間でこういうことをやりたいんだということを、しっかり思想をこの中に、投資の費用というのはすごい具体的に思想が出るので、思想を数字に置きかえることになりますから、是非いい計画書をつくってください。それで、その進捗を毎年毎年、多分5年だと3年目が大事な見直しのタイミングになるんで、そこで堂々と、こういうふうに見直しますということを、是非やっていただきたいと思います。</p> <p>努力の結果、この11億円の積立金があるというのは間違いないと思うんですけど。ただ、下手な説明をすると、それだけ余ってるなら県に返せというふうな話も出てこないとも限らないんで、しっかり、そこをやっていただきたいと思います。</p> <p>民間企業は、予算をこれだけ残した、使わなかった、これだけ効率的に経費を抑えて事業をした、それは、評価なんですよ。ですから、是非そこら辺は、本当に医療センターの高度化、効率化、それから市民のために、高い、いろんな学識も、勉強ももっていただいて有効にお使いいただきたいなというふうに思います。</p> <p>はい、委員の皆さん、よろしいでしょうか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>それでは、積立金の次期中期目標期間の業務への充当に係る承認につきましての意見は「適当と認められる」という評価にいたしたいと思えます。</p>	<p>、引当金に計上はできないというのが結論です。</p> <p>○岡山県精神科医療センター そういう項目がないんです。</p> <p>○岡山県精神科医療センター それは、検討したことがあるんですけども、それは無理だということで、今後の課題だと思っています。</p> <p>○岡山県精神科医療センター 1期の終わりに、相当いろいろ考えました。</p> <p>○岡山県精神科医療センター そのとおりでございます。</p>
--	---

(3) その他
今後の日程について確認。挨拶等